

令和 7（2025）年度 飯塚市 産学官交流・共働促進事業

学生参加者 募集要項

飯塚市 経済部 産学振興課 産学振興係

令和 7 年 7 月

飯塚市では、地域の企業等が直面している課題に対し、市内企業と大学生・大学院生（以下、「学生」。）を交えたワークショップを開催し、その課題解決に一緒に取り組んでいただける学生の方を募集します。

1. 事業目的

地域企業等が直面している課題に対し、学生を交えたワークショップを開催し、双方の交流により、新しい視点を持ちながら、アイデアの創出を行い、企業と共に課題に対してのアプローチを検討しその解決策の実践・実装を目指します。学生は社会課題を探求・解決する力を養い、企業等は課題解決に向けた新たな着想や手法を得る機会にさせていただき、両者の共働を進めていきます。

地方に眠る個別のケースに対し、学生チームでスクラムを組み、アジャイル型で対応策を練り上げていくことで、課題解決能力以外にも、チームビルディングスキルやプレゼンスキルの向上、ビジネスマインド醸成などに繋がることが期待されます。

2. 実施内容

- ・9月20日（土）にキックオフ会（課題発表）を実施
 - ・同日の9月20日（土）-21（日）に課題を提示した企業の現地視察を実施
 - ・1企業5名程度のチームに分かれ、10月-12月にかけて、各チームで合計5回の課題解決ワークショップを行い、課題解決の方法を模索・検討
 - ・12月中旬に報告会を実施し、課題解決案を発表
- 参加学生に対し、修了証を交付予定

<スケジュール>

時期	内容	場所
第1回 (9月20日、21日)	キックオフ会 企業見学（現地視察） チームに分かれてディスカッション	飯塚市内 (対面)
第2回	チームごとの課題解決ワークショップ（企業課題へのアプローチ）	飯塚市内 (ハイブリッド 又はオンライン)
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
報告会 (12月中旬)		飯塚市内 (対面)

※第1回目は、市内学生は通学、立命館アジア太平洋大学の学生は宿泊です。

※スケジュールは状況に応じ変更する可能性があります。

3. 実施場所

状況に応じ、以下の中で実施いたします。

- ・課題を提示した企業内スペース
- ・飯塚市内会議スペース（市役所等）
- ・オンライン

4. 対象者

2. 実施内容に示した全てのスケジュールに参加可能であり、以下のいずれかに該当する方が参加いただけます。定員は15名（各大学5名前後）の予定です。

- ①飯塚市内大学（九州工業大学情報工学部、近畿大学産業理工学部、近畿大学九州短期大学）に通う学生
- ②飯塚市内に住民票を有する学生
- ③飯塚市と連携協定を有する立命館アジア太平洋大学に所属する学生

※ただし、留学生の場合、日本語能力試験N3以上の資格を有すること（日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができること）

5. 企業課題テーマ

- ①企業名 ②課題 ③背景や目的 ④取組みの経緯

参加企業・1社目

①	株式会社サワダ
②	企業の魅力発見と地域との接点作り
③	<p>弊社は、道路や橋、学校やビルなど、街をつくるために欠かせない“鉄”の加工を行っている。たとえば、護岸工事や地盤改良、橋の脚といった“基礎の部分”に使われる重要な部材をつくっており、社会のインフラを支える、なくてはならない役割を担っている。</p> <p>一方で、以前は「きつい・きたない・きけん（3K）」というイメージを持たれがちでしたが、今では、機械化が進み、整理整頓を徹底し、働きやすい環境づくりにも力を入れている。また、これまで当社の技術者はほとんどが男性でしたが、女性も働ける職場を目指して、職場環境の改善や働き方の見直しも進めている。さらに、将来を見据えて、新たな事業への挑戦（たとえば海外展開など）にも取り組もうとしている。</p> <p>弊社の「本当の強み」って、どこにあるだろうか？若い人たちや地域の方に、私たちの魅力をもっと伝えるには、どんな方法があるだろうか？</p>
④	現在、地域の中学生や小学生に、弊社をもっと知ってもらいたいと考え、飯塚市の取組に参加している。

	<p>また、高校1年生のインタビューシップ（職業体験のインターシップとは異なる内容）の受け入れも始めました。</p> <p>社内では、「何のために働くのか?」「働くことのやりがいや生きがいとは?」というテーマで勉強会も開いていますが、なかなか社員から意見が出ず、模索している。</p> <p>また、弊社のことを知ってもらうために動画の作成にもチャレンジしていますが、思うように形にできていない。</p> <p>今回は、私たち自身では気づいていない“会社の強み”を発見してもらい、それをどのように外部へ発信していけばよいか、一緒に考えていきたい。</p>
--	--

参加企業2社目

①	株式会社麻生 飯塚病院
②	地域に寄り添い、親しみやすい病院に必要なこととは
③	<p>飯塚病院は、この地域に開設以来、長い歴史を持つ病院です。長年にわたり、地域の救急医療を担い、皆さんの「もしも」の時にいつでも駆けつけられるよう、日々準備を整えている。</p> <p>しかし、地域の中で飯塚病院がどのような役割を担っているのか、そして当院がどんな場所なのかを知ってもらう機会が少ないと感じている。病院は「病気になったら行くところ」というイメージが強く、少し敷居が高く感じられてしまうのかもしれない。そのため、健康に関するイベントなどの告知にも苦労しているのが現状です。</p> <p>飯塚病院を、もっと気軽に頼れる、病院をもっと皆さんの暮らしに寄り添う、親しみやすい場所にしていきたいと考えている。今健康な方も、万が一の時には「飯塚病院があるから安心できる」と思ってもらえたり、私たちが開催するイベントに気軽に足を運んでもらえたりすることで、当院をより身近な存在として、飯塚病院のファンになって欲しいと考えている。</p>
④	<p>SNS やホームページでの情報発信はしているものの、もっと多くの方に飯塚病院のファンになってもらうために、私たちはいま手探り状態です。活用しきれていない SNS アカウントもあるのが現状です。</p> <p>そこで、YouTube での動画発信など、新しい情報発信の取り組みを始めたいと考えています。その内容や進め方について、ぜひ若い世代の皆さんのアドバイスをください。「こんな SNS 投稿なら興味がわく!」「こんな企画だったら見てみたい!」といった、皆さんの率直な意見やアイデアを教えて欲しい。</p> <p>これまで設けてきた「サポーター制度」は、コロナ禍での活動中断や、サポーターの皆さんの高齢化といった課題に直面しています。地域に根ざした</p>

	<p>病院として、これからも皆さんに安心して頼ってもらえる存在であり続けるため、若い世代の皆さんにもサポーターとして加わってほしいと考えている。どうすれば若い人が飯塚病院を応援したくなるか、どんなサポーター活動なら参加してみたいかなど、皆さんの自由な発想で意見を聞かせて欲しい。</p>
--	---

参加企業・3社目

①	社会福祉法人 佐与福祉会
②	若者を採用するために必要な要素や手法は何か
③	<p>弊社は障がい者、障がい児、高齢者を対象とした施設を6つ運営している社会福祉法人。</p> <p>現在はInstagramでご家族向けの発信をしているが、これからは「若者の採用を増やしたい!」という思いがあり、今後若者へ向けた採用活動用の投稿をしていこうと考えている。</p> <p>ただ、そこで今ネックになってくるのが積極的に出演やアイデア出しをしてくれる職員が居ないということ。</p>
④	<p>今まではご家族向けの発信は好評ですが、私達が採用面でターゲットにしている層への閲覧数がなかなか伸びていない。</p> <p>そこで、若者向けに新しく SNS のアカウントを作成し、そこでは「この職場楽しそう!」と思っていただけるような動画を発信したいと考えている。</p> <p>学生の皆さんには学生さんの目線から広報担当の私と共に SNS 運用を含めて若者を採用するために必要な要素や手法を一緒に考えて欲しい。</p>

6. 募集期間

7月22日（火）から9月12日（金）まで

※定員に達しなかった場合、9/14（日）から10月中旬にかけて追加募集を行います。

※応募多数の場合は事務局で参加者を選考いたします。

※参加決定者に対して、9月中旬頃に事前説明会（オンライン）を予定しています。

詳細は別途案内いたします。

7. 申込み方法

以下のQR（チラシにも同様のものを掲載）を読み取り、氏名等必要事項を記載してください。



8. 費用負担等

- ・本事業による学生参加者の費用負担及び報酬はありません。
- ・立命館アジア太平洋大学の学生は、キックオフ会・企業現地視察（1泊2日・飯塚市内宿泊）及び成果報告会（日帰り）については原則飯塚市内現地で参加し、それ以外のワークショップはオンラインでの参加となります。飯塚市に来訪する際の交通手段の確保・交通費及び第1回の宿泊費は飯塚市（飯塚地域雇用創造協議会）が負担します。

9. その他

- ・全ワークショップ及び報告会はグループでの対応とし、それ以外に作業が発生した場合にはグループ内で役割を決めて個別に対応する形となります。
- ・終了証は全ワークショップ及び報告会に参加した学生に対して交付します。

10. 問い合わせ先

飯塚市 経済部 経済振興課 産学振興係
福岡県飯塚市新立岩5-5
0948-22-5500（内線1453）
sangaku@city.iizuka.lg.jp

Iizuka City Academic-Industry-Government Collaboration and
Promotion Project for Fiscal Year 2025

Recruitment Guidelines for Student Participants

Iizuka City, Economic Affairs Department, Industry-Academic
Promotion Division, Industry-Academic Promotion Section

July 2025

Iizuka City is seeking university and graduate students (hereinafter referred to as "students") to participate in workshops aimed at addressing challenges faced by local businesses. These workshops will involve collaboration between local companies and students, and we invite students who are interested in working together to tackle these challenges.

1. Purpose of the Project

The goal is to hold workshops that involve students to address the challenges faced by local businesses. Through interaction between both parties, we aim to foster new perspectives and generate ideas. This collaboration will enable us to explore approaches to the identified challenges and work towards the practical implementation of effective solutions. Students will develop skills in exploring and resolving social issues, while businesses will gain fresh perspectives for problem-solving. This collaboration aims to advance mutual cooperation between students and businesses.

In addressing individual cases unique to the region, student teams will form Scrum groups to develop agile responses. This approach is expected to enhance not only problem-solving abilities but also team-building skills, presentation skills,

and the cultivation of a business mindset.

2. Implementation Details

- Kick-off meeting (presentation of the project) will be held on Saturday, September 20th.
- On-site visits to companies that presented issues will be conducted from September 20th (Sat) to 21st (Sun)
- Each company will be divided into teams of about five people, and from October to December, each team will hold a total of five problem-solving workshops to explore and consider ways to solve the problems.
- A report session will be held in mid-December to announce solutions to the issues.
- Participating students will be given a certificate of completion.

< Schedule >

Schedule	Content	Location
1st Session (September 20th-21st)	Kickoff Meeting Company Visit (On-site Inspection) Team-based Discussions	Iizuka City (In-person)
2nd Session	Team-specific Problem-solving Workshop (Approach to Company Challenges)	Iizuka City (Hybrid or Online)
3rd Session		
4th Session		

5th Session		
6th Session		
Reporting Session (Scheduled for mid-December)		Iizuka City (In-person)

Note: For the 1st Session, local students (who meet the criteria under 4. Eligibility (i)) will commute, while students from Ritsumeikan Asia Pacific University will stay overnight.

Note: The schedule is subject to change depending on circumstances.

3. Location

Depending on the situation, the workshops will be held at one of the following locations:

- On-site spaces at the participating companies
- Meeting spaces within Iizuka City (ex, city hall)
- Online

4. Eligibility

Anyone who meets any of the following criteria can participate in all of the schedules shown in the implementation details 2.

The maximum number of participants is 15 (approximately 5 from each university).

- ① Students enrolled at universities in Iizuka City (Kyushu Institute of Technology, Kindai University Faculty of Humanity-Oriented Science and

Engineering, Kindai University Kyushu Junior College)

② Students who have a certificate of residence in Iizuka City

③ Students affiliated with Ritsumeikan Asia Pacific University, which has a partnership agreement with Iizuka City

*Note: International students must have a Japanese Language Proficiency Test level N3 or higher (ability to understand everyday Japanese to some extent).

5. Company Challenge Themes

①Company name ②assignment ③Background and purpose ④Background of the initiative

No.1

①	Sawada Co., Ltd.
②	Discovering the appeal of companies and building connections with the local community
③	Our company processes "steel," which is essential for building cities, roads, bridges, schools, buildings, etc. For example, we manufacture important components used in the "foundations" of revetments, ground

	<p>improvement works, and bridge piers, and play an indispensable role in supporting social infrastructure.</p> <p>On the other hand, while in the past the company was perceived as "hard, dirty, and dangerous (3K)," now, mechanization has progressed, and the company is focusing on thorough organization and tidying, as well as creating a comfortable working environment. In addition, while most of our engineers have been male up until now, we are working to improve the work environment and review work styles in order to create a workplace where women can also work. Further more, with an eye to the future, we are also looking to take on new business challenges (such as expanding overseas).</p> <p>What are our company's "true strengths"? What methods can we use to better communicate our appeal to young people and local residents?</p>
④	<p>We are currently participating in an initiative by Iizuka City in order to help local junior high and elementary school students become more aware of our company.</p> <p>We have also started accepting interviewships (which are different from work experience internships) for first-year high school students.</p>

	<p>We hold study sessions within the company on topics such as "What is the purpose of work?" and "What is rewarding and fulfilling about work?" but employees are not coming up with any opinions, so we are still searching for answers.</p> <p>We are also trying to create videos to help people learn more about our company, but we have not been able to get the results we would like.</p> <p>This time, we would like to help you discover "strengths of the company" that you yourself may not have noticed, and think together about how you should communicate these to the outside world.</p>
--	--

No.2

①	Aso Co., Ltd. Iizuka Hospital
②	What is needed for a hospital that is friendly and caring for the local community?
③	Iizuka Hospital has a long history since it first opened in this area. For many years, it has provided emergency medical care for the local community, and is always ready to rush to the scene in the event of an emergency. However, it feels like there are few opportunities for people

	<p>to learn about the role Iizuka Hospital plays in the community, and what kind of place it is. There is a strong image of hospitals as "places to go when you get sick," and they may seem a little intimidating. Because of this, it is currently struggling to publicize health-related events and the like.</p> <p>We want to make Iizuka Hospital a friendly place that people can rely on more easily, that is more closely integrated into people's lives, and more accessible. We want people who are currently healthy to know that in the event of an emergency, "I can feel safe because Iizuka Hospital is here," and to feel free to attend the events we hold, so that they will become familiar with our hospital and become fans of it.</p>
④	<p>Although we are posting information on social media and our website, we are still feeling our way around in order to get more people to become fans of Iizuka Hospital. At present, we are not making full use of some of our social media accounts.</p> <p>So we would like to start a new initiative to share information, such as posting videos on YouTube. We would love to hear advice from the younger generation on the content and how to proceed. We would love</p>

	<p>to hear your honest opinions and ideas, such as "I'd be interested in a post like this on social media!" or "I'd like to see a project like this!"</p> <p>The "Supporter System" that has been established so far is facing challenges such as the suspension of activities due to the COVID-19 pandemic and the aging of supporters. As a hospital rooted in the community, we would like to continue to be a presence that people can rely on with confidence, so we would like the younger generation to join us as supporters. We would like to hear your free-thinking opinions on how to make young people want to support Iizuka Hospital, what kind of supporter activities they would like to participate in, etc.</p>
--	--

No.3

①	Social Welfare Corporation Sayo Welfare Association
②	What are the elements and methods necessary to recruit young people?
③	<p>Our company is a social welfare corporation that runs six facilities for people with disabilities, children with disabilities, and the elderly.</p> <p>Currently, we post content aimed at families on Instagram, but from now on we would like to "increase the number of young people we hire!" and are thinking of posting for recruitment activities aimed at young people.</p>

	<p>However, the current bottleneck is that we do not have any staff who are willing to appear on the show or come up with ideas.</p>
④	<p>So far, our messages aimed at families have been well received, but the number of views among the demographic we are targeting for recruitment has not increased.</p> <p>So we are thinking of creating new social media accounts aimed at young people, where we will post videos that will make them think, "This workplace looks like a fun place to work!"</p> <p>I would like students to work with me, the PR officer, to think about the elements and methods needed to recruit young people, including how to use social media, from a student perspective.</p>

6. Application Period

From Tuesday, July 22nd to Friday, September 12th

*If the maximum number of applicants is not reached, additional applications will be accepted from Sunday, September 14th to mid-October.

*If there are a large number of applications, the secretariat will select participants.

*A preliminary briefing session (online) is scheduled for selected participants in mid-September.

Details will be provided at a later date.

7. Application Method

Please read the QR below (the same is also printed on the flyer) and fill in your name and other required information.



8. Cost and Expenses

- There will be no fees or compensation for student participants in this project.
- Students from Ritsumeikan Asia Pacific University are generally expected to participate in person for the Kickoff Meeting, Company On-site Inspection (1 night, 2 days, with accommodation in Iizuka City), and the Results Presentation (day trip). For other workshops, participation will be online.

Iizuka City will cover transportation arrangements and travel expenses.

Additionally, accommodation costs for the 1st session will also be covered by

Iizuka City. (Iizuka Regional Employment Creation Council).

9. Others

- All workshops and report sessions will be handled by groups, and if any other work arises, roles will be decided within the group and the work will be handled individually.

- Certificates of completion will be issued to all students who participate in all workshops and presentation sessions.

10. Contact Information

Iizuka City, Economic Affairs Department, Industry-Academic Promotion

Division, Industry-Academic Promotion Section

5-5 Shin-Tateiwa, Iizuka City, Fukuoka Prefecture

0948-22-5500 (Extension 1453)

sangaku@city.iizuka.lg.jp